



TITLE:

雜纂

AUTHOR(S):

CITATION:

雜纂. 日本外科宝函 1940, 17(1): 216-225

ISSUE DATE:

1940-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/205147>

RIGHT:

雜

纂

クツシング博士逝ク

京都帝國大學醫學部外科學教室

講師 醫學博士 荒木千里

近世神經外科ノ建設者 Harvey Williams Cushing 博士ガ突如逝去シク。ニュー・ヘーブン病院ニ於テ心臟冠狀動脈閉塞ノ爲ニ一語ヲモ殘ス暇ナク殆ンド瞬間的ニ死亡シタノデアル。昭和14年10月7日午前2時45分、享年70歳デアツク。

クツシングノ第70回誕生日ヲ祝フ爲ニ門下生其他ニヨツテ盛大ナル學會ト賀宴トガ催サレタノハ、ツイ半年前ノ4月8日ノ事デアツタ。其際ルーズベルト大統領ノ「メツセージ」ヲ始メ、クツシングノ手術ニヨツテ治癒シタ腦腫瘍患者カラノ祝辭、祝電ガ100通以上一上ツタトイフ。更ニコノ誕生日ニ當ツテ British Journal of Surgery ヲ始メ各國ノ外科學及ビ神經病學雜誌ニヨツテクツシング記念號ガ發刊セラレ、又ハ特ニ卷頭祝辭ガ述ベラレタ。

New Haven Register Outstanding Scientists Pay Tribute To Dr. Cushing



Outstanding scientists from the United States and other nations and President Roosevelt last night extended birthday greetings to Dr. Harvey Cushing of Yale at a dinner held in the New Haven Lawn Club to mark his 70th birthday. Shown above are, left to right: Dr. Eustace Semmes of Memphis, Tenn., incoming president of the Harvey Cushing Society; Doctor Cushing and Dr. Louise Eisenhardt of Yale, personal colleague of Doctor Cushing and retiring president of the society.

クツシングハ凡ソ學者トシテノ最大ノ名譽ノ中ニ逝イタノデアル。老イテ益々研究心ノ旺盛デアツタクツシングハ彼ノ腦腫瘍「シーリーズ」ニ就テ未ダ之カラ調べテ見タイト思ツテキタ事が妙クナカツタカモ知レナイ。併シ彼ノ志ヲ繼ギ、更ニ之ヲ發展セシムベキ學問上ノ後繼者ハ今デハ全世界ニ充テキル。既ニ米國デハ8年前カラ Harvey Cushing Society ガ彼ノ門下生及ビ其他ノ神經外科専門家ニヨツテ組織セラレ、彼ノ名ニ於テ毎年神經外科學會ヲ開イテ居ル。米國ノミナラズ現今世界ノ主ナル神經外科醫ハ殆ンド皆彼ノ弟子又ハ孫弟子デアル。彼ノ神經外科ハ今ヤ完全ニ全世界ヲ支配シテ居ル。學者トシテ是以上何ヲ望ム事ガアラウ。彼モ必ズヤ安ラカニ瞑スル事が出來タデアラウ。

略歴

正確ヲ期スル爲ニ門下生 Penfield 其他ニヨツテ發表サレタクツシング評傳 (Elliot, H, Gaze, L, and Penfield, W., Arch. Neurol. & Psych., Vol. 34, pp. 635-642, 1935) ノ抄譯ヲ基礎トシテ述ベル事ニスル。

曾祖父ヨリ代々ノ醫者デアツテ祖父ノ時代カラハ Cleveland デ開業シテ居タ。クツシングハ9人兄弟ノ末子デアル。エール大學豫科ヲ修メ、ボストンノハーバート大學醫學部ニ入り1895年卒業。1年間 Massachusetts General Hospital デ宿直醫ヲ勤メタ後、ボルチモアノJohns Hopkins Hospital デ Halsted 教授ノ第二助手トナツタ。ホールステツドハ當時米國デ最モ優レタ外科手術者デアツタノミナラズ、非常ニ學究的ナ人デ外科手術ノ生理學の基礎トイフ事ニ深い興味ヲモツテキタ。彼ハ「ゴム」手術手袋ヲ使用スル事ヲ始メ、又成ルベク細イ縫合糸ヲ使用スル事、手術組織ノ取扱ヒハ極メテ慎重ニ手柔カニスベキ事、手術時間ノ短少ヲ競フ必要ナキ事等所謂ホールステツド流ノ外科手術ヲ教ヘタノデアル。之ガ後年クツシング腦外科ノ基礎ヲナスモノデアツタ。

クツシングハ其頃發見サレタレントゲン線寫眞ニ就テ當初カラ非常ニ興味ヲモツテ居タガ、當時ハレ線ノ技術其他一般知識ガ未ダ極メテ幼稚デアツタ。其頃一人ノ脊椎ノ盲管銃傷患者ガ入院シタ。クツシングハ色々工夫シテ遂ニソノ彈丸ノ撮影ニ成功シタ。ソレハ Johns Hopkins 病院ニ於ケル最初ノレ線寫眞デアツタ。尙コノ患者ガ6ヶ月入院シテキル間ニ彼ハ知覺麻痺ガ次第ニ恢復シテ行ク經過ニ深い興味ヲ覺エ、毎日根氣ヨク知覺麻痺ノ範圍ヲ圖示シツツ愈々感銘ヲ深クシタ。彼ハ此例ニ就テレ線寫眞ヲ添ヘ最初ノ報告論文ヲ書イタガ、ソレガ圖ラズモ後年神經外科専門家トシテ立ツーツノ機縁ヲナシタモノデアツタ。

併シ未ダ機運ハ熟シテ居ナカツタ。ボルチモアノ最初ノ4年間彼ハ矢張り一般外科醫トシテ膽石形成、消化管ノ細菌學、「コカイン」麻醉等ニ就テ實驗的研究ヲ行ツテ居タノデアル。

1900年彼ハ歐洲ヘ渡ツタ。神經外科ノ先覺者デアツタ倫敦ノ Victor Horsley ニ就イテ研究シタイ意嚮デアツタガ、ホースレイハ公私トモ餘リニ多忙デアツタ。ソレデクツシングハ確タル目的モナク佛蘭西カラ瑞西ヘ渡ツタガ、偶然ノ機縁カラ ベルンデユツヘル教授ノ示唆ニヨリ

Kronecker ノ研究室デ腦壓ノ生理ニ就テ研究スル事ニナツタ。其實驗成績ノ一ツトシテ彼ハ頭蓋內壓ガ上昇スルト全身ノ血壓モ上昇スル事ヲ證明シタ。

其後クツシングハ Liverpoolニ遊ビ、腦生理ノ第一人者 C. Sherrington 教授ノ類人猿腦皮質ノ運動中樞域決定ニ關スル劃期的ナ實驗ヲ手傳ツタリシタ。

1901年ノ秋クツシングハボルチモアヘ歸ツタ。ソシテ Johns Hopkins 病院デ神經外科ヲ専門ニヤリタイト懇請シタ。ホールステウドハ此申出ニ對シテ『腦外科ノ患者ハ此病院開設以來 10例ヲ出ナイ位尠イモノダシ、ソレニ手術ニヨツテ助カツタ例モナイ、腦外科ハーツノ専門科トシテヤル程ノモノデハナイ』ト云ツテ相手ニセズ、『其代リニ整形外科ヲヤツタラ如何ダ、ソレダト神經外科ノナ疾患モ皆其中ニ含マレル事ニナルグラウ』ト勸メタ。結局クツシングハ矢張り一般外科ヲ續ケテ行クヨリ他ナカツタ。併シ意外ニモソシテ幸運ニモボツボツ神經外科ノ患者ガ彼ノ所ニ集ツテ來ル様ニナツタ。彼ノ希望ニ次第ニ光ガ射シテ來タノデアル。

クツシングハ1912年迄ボルチモアニ助教授トシテ在任シタガソノ期間ニ於ケル彼ノ勉強振リハ殆ンド超人的デアツタ。當時ノ同僚 Crowe ノ語ル所デハ『ソノ頃ノクツシング程勉強シタ人間ヲ自分ハ嘗テ見タ事ガナイ』ト云フ。勿論全努力ハ神經外科ノ建設ニ向ツテ傾注サレタ。併シソノ頃ニ於ケル彼ノ腦手術ハ多クハ悲慘ナル失敗デアツタ。何時間モ何日モ傷心ノ努力ノ後ニ來ルモノハ死デアツタ。特ニ氣ノ弱イモノナラズトモ『駄目ダ！矢張りホールステウドノ云ツタ事ハ正シカツタ。神經外科ハ専門ニヤルベキ領域デハナイ』ト匙ヲ投ゲタデアラウ所ヲ、鐵ノ神經ノクツシングハ斷乎屈シナカツタ。血ノ出ル様ナ努力ガ更ニ續ケラレタ。顳顬筋下減壓手術ノ創始、止血器銀「クリツプ」ノ考案、二層縫合ニヨル頭蓋軟部ノ閉鎖等々手術技術ノ新工夫ガ次々ニ提唱サレタ。ソシテ手術成功例ガ少シ宛現ハレテ來ル様ニナツタ。其ト共ニ彼ノ名聲ハ次第ニ擴マツテ、彼ニ集ル神經外科患者ノ數ハ愈々多クナツタ。

ソノ間ニアツテ彼ハ基礎的研究ノ方ヲモ決シテ忘レナカツタ。彼ノ興味ハ臨床症候ノ基礎ヲナス腦生理ノ研究ニアツタ。彼ハ人間ノ側腦室ヲ開イテ觀察中腦脊髓液ガ脈絡叢ヨリ分泌サレル事ヲ知ツタ。又局所麻醉ノ下ニ頭蓋腔ヲ開キ人間ノ腦皮質ニ於ケル運動及ビ知覺中樞域ノ分布圖ヲツクツタ。他方動物實驗的ニモ彼並ニ彼ノ門下生ハ腦脊髓液及ビ腦下垂體ノ生理ニ就テ多クノ優レタ研究ヲ成シ遂ゲテキル。

1912年ニクツシングハハーバート大學外科教授並ニ附屬病院 Peter Bent Brigham Hospitalノ外科主任トシテボストンヘ轉ジタ。併シ間モナク歐洲大戰ガ勃發シタ。彼ハ心血ヲ瀝イデ來タ畢生ノ研究ヲ中絶シテ從軍ヲ志願シ、大佐トシテ英佛軍ニ從ヒ(1915)、米國參戰ト共ニ米國第五基地病院ノ外科主任及ビ米國遠征軍神經外科高級顧問トシテ活躍シタ。彼ハ勿論頭蓋戰傷ノ研究ニ至大ノ關心ヲモツテ居タガ、學術的ニハ結局大シテ得ル所ハナカツタ。彼ハコノ從軍中ノ日記ヲ整理シ、"From a Surgeon's Journal"トシテ1936年ニ出版シテキル。ソレハ米國ノ一般讀書界デ其年最モ多ク讀マレタ著書ノ一ツデアツタ。

1919年＝凱旋シテ再ビハーバートヘ歸ツタ。彼ガ嘗ツテソノ門下タラントシタ Sir Victor Horsley モ大戦＝参加シタガ、彼ハ多クノ犠牲者達ト同ジク永久＝故國ヘハ歸ラナカツタ。

クツシングノ本格的ナ脳外科ハ其後即チ1919—1933年迄＝行ハレタモノデアル。其間腦腫瘍ノ診断、手術上＝於ケル進歩ハ驚異＝値スルモノデアツタ。彼ヲ慕ツテ各地カラ集ツタ弟子達ニハ素晴ラシイ俊才ガ多カツタ。ソレガコノ進歩＝更＝拍車ヲカケタノデアル。

クツシングハ神經病學者トシテモ深イ學殖ヲモツテ居タ。彼ハ診断＝就テ神經病専門家＝意見ヲ聞ク必要ヲ認メナカツタ。總テハ自分デ診断シ自分デ手術シタ。即チ完全＝獨立シタ神經外科ヲヤツタノデアル。彼ハ最初カラ内科醫又ハ神經科醫ノ『注文＝ヨル外科』ヲ極度＝嫌ツテ居タ。

手術ノ成績ハ次第＝改善サレ劃期的ナ研究業績ガ次々＝發表サレタ。彼ノ名聲ハ頓＝擧リ彼ノ許＝ハ世界各國カラ弟子ガ雲集シタ。

其頃彼ハボルチモア時代＝私淑シテ居タ偉大ナル内科教授ノ Sir William Osler (英國オックスフォード大學教授トシテ死ンダ)ノ傳記編纂ヲ夫人ノ依囑＝ヨツテ引受ケテ居タ。米國、英國ノ他世界各地＝散逸シテキル オスラーノ記錄ヲ集輯スル事ハ非常＝骨ノ折レル仕事デアツタ。ソノ頃ノ彼ノ日課ハ早朝カラ自宅デコノ傳記編纂＝從事シ、10時又ハ11時＝病院＝出勤シ直チニ手術室＝飛ビ込ンダ。ソシテ其儘3—6時間全精神ヲ集中シテ手術ヲ行ツタ。ソノ間完全ナル沈黙ガ行ハレタ。手術ガ済ムト隣リ合ツタ小サナ準備室ヘ引上ゲテ、一杯ノ紅茶ト「トースト」トヲ攝リ、手術記錄ヲ綴リ、手術「スケッチ」ヲ描イタ。ソレカラ自宅デ多クノ書信＝目ヲ通シ、患者ノ繃帶交換ト廻診ヲ行ヒ、研究室＝モ一時間顔ヲ出シタ。或時ハ夕方迄手術衣ヲ脱ガナイ事モアツタ。教室全體ガクツシングノ精勵＝壓倒サレテ居タ。年齢ヲトル＝ツレテ、彼ハ益々精勤トナリ助手＝委セル仕事ガ却ツテ少クナツタ。

オスラーノ傳記ハ尨大ナル2卷トシテ1925年＝發刊サレタ。傳記トシテ異色ヲモツタ力作デアル事ガ世＝認メラレ、其年＝於ケル傳記物ノ最大傑作トシテ Pulitzer 賞ヲ與ヘラレタ。

1932年＝クツシングハ停年ヲ以テハーバートトヲ辭シタ。丁度神經外科醫トシテ圓熟ノ極＝達シタ時デアツタ。其後彼ハエール大學ノ招聘＝應ジテ神經病學ノ教授トシテ赴任シタガ、閉塞性動脈炎ノ爲＝最早手術＝堪ヘナカツタ。從ツテ單＝講壇デ神經病學ヲ講ズルグケデアツタガ他方ボルチモアカラボストン時代＝互ツテ彼ガ手術シタ腦腫瘍患者ノ病史ト標本トヲエール＝集メテ腦腫瘍記錄研究所 (Brain Tumor Registry) ヲツクリ、ソノ整理ト研究ト＝没頭シタ。晩年ノ數年間ハソノ中ノ「メニンジオーマ」ノ例＝就テ、臨床、病理、手術成績ヲアイゼンハルト博士ト協同シテ整理研究シ、昨年「モノグラフ」トシテ發表シタバカリデアツタ。

エールヲ停年デ辭メタノハ1937年デアル。

クツシングノ思ヒ出

私ハ昭和11年4月神經外科研究ノ目的デ渡米スル時當然先ツクツシング＝就テ學ビタイト願

ツタ。當時私ハ彼ガエールデモ矢張り神經外科ヲヤツテキルモノト許リ思ヒ込デキタ。恰モ
出發ニ先立ツテ京大精神科ノ今村新吉教授ノ御厚意ニヨツテ岡山醫大耳鼻科ノ田中文男教授カ
ラクツシング宛ノ紹介狀ヲ戴ク事ガ出來タ。

米國ニ着イテカラ私ハクツシングヲ訪レル前ニ先ヅ米國ノ事情ニ慣レテオキタイツモリデ、
暫ク紐育ニ滞在シテソコノ神經病學研究所デエルスバークノ神經外科ヲ見學シタ。紐育デハ私
ハインターナショナル・ハウスニ居タノデ色々人ト交際スル機會ヲ得タガ、話ハ自然ニ私ノ渡
米目的デアル神經外科ノ事カラクツシングノコトニ落チタ。殆ンド總テノ人ガ醫者デモナイノ
ニクツシングノ名ヲ知ツテキテ、何レモ口ヲ揃ヘテ彼ハ fine man ダトイツタ。クツシングハ
凡テノ人ニ敬愛サレル人格者デアルラシカツタ。ソノ中私ハエルスバークノトコロデクツシン
グハ病氣ノ爲ニモウ手術ハシナイト聞カサレテ實ニガツカリシタ。コレデハ自分ノ豫定モ變更
セネバナラナイガ、扱ドウシタモノカト思案シタ。丁度ソノ時新潟ノ中田教授ガ紐育ニ見エテ
『ダンディノ所デ約1ヶ月見學シテ來タガ手術モ實ニ上手ダシ、患者モ多イカラ是非行ツテ見
ロ』トイフ忠告ヲ受ケタ。クツシングガ最早手術ハシナイトナレバ、クツシングノ弟子トシテ有
名ナコノダンディトシカゴノベーレイトノ何レカニシタイト思ツテキタ所ダツタノデ、ソノ内
ニダンディノ所ニ行カウト決心シタ。ソノ後1週間許リシテ中田教授カラノ便リニ『時間ガアツ
タノデ一寸ニュウヘヴンヘ行ツテクツシングニ會ツテ來タ。無論モウ手術ハヤツテキナイガ色
々有益ナ話ヲ聞イタ。實ニ話好キノ好々爺デアル。彼ハダンディノ他ニボストンノホーラツク
ス、ロチェスター(紐育州)ノヴァン・ワーゲネン、加奈陀ノモンリオールノペンフィールドノ
所ニ居ルコーンノ手術ヲ推獎シタ、ベーレイハ學者デハアルガ外科醫者デハナイトノ批評デア
ツタ』ト記サレテアツタ。『話好キノ好々爺』トイフ言葉ガ深ク私ノ心ニ殘ツタ。

私ハ未ダ暑サノ嚴シイ8月ノ初メニボルチモアヘ行ツタ。其處ハ今ダンディガ居ルノミナラ
ズクツシングガ腦外科ヲ創メタ記念スベキ所デモアツタ。ダンディハ噂ノ様ニ素晴シイ天才的
ナ神經外科醫デアツテ、私トシテハ教ヘラレル事許リデアツタ。私ハ茲ニ3ヶ月居タガ、ダンディ
見學ノ傍クツシングノ多クノ論文ヤ著書ヲ讀ム事ガ出來クツシングニ對スル尊敬ハ益々深ク
ナツタ。更ニ私ハボルチモア滞在中ラズモ未ダ面識ナキクツシングカラ論文ノ別刷ヲ一部贈
ラレテ面喰ツタ。ソレハ彼ノ門下生ケアンズガ10年前クツシングノ下デ助手ヲシテキタ頃ノ腦
腫瘍手術患者ニ就テ最近調べタ遠隔成績ノ論文デ、發表サレタバカリノモノデアツタ。クツシン
グガ私ノ事ヲ知ツテキルノハ渡米前ニ京都デ知合ツタ老友ノキース氏ガ其ノ後歸米シテクツシ
ングト同ジニュウヘヴンニ住ンデキタノデ、一日クツシングヲ訪ネテ私ノ事ヲ話シ色々研究
ノ便宜ヲ依頼シテクレタカラデアツタ。私ハ此ノ豫期セザルクツシングノ厚意ニ深く感激シ
タ。ソシテ始メテクツシングヘ長イ感謝ノ手紙ヲ出シタ。成程クツシングハ世間ノ人ガ云フ様
ニ fine man ダト敬慕ノ念ヲ更ニ深クシタ。唯ソノ頃私達〔東大青山外科(現熊大助教授)ノ近藤
駿四郎君モ偶然一緒デアツタ〕ニ合點ノユカヌ事ハ、ダンディハクツシングノボルチモア時代

ノ古イ助手デアリ乍ラ、クツシングト仲ガ惡イラシイ事デアツタ。折ニフレデダンディハチヨイチヨイクツシングノ事ヲ話ノ引合ニ出シタガ殆ンド何時モソノ惡口デアツタ。例ヘバ『クツシングガ茲ニ居ル頃ニハ腦腫瘍ニ對シテハ減壓手術許リヤツテキテ満足ニ剔出シタコトハナイ』トカ、『クツシングノ手術ハ非常ニ時間ガカカツタノデ1日ニ1人シカ手術シナカツタ(ダンディハ2—3人ハヤツテノケル)』トカ、更ニ最モ驚カサレタノハ『クツシングハ利己的ナ人ダ』ト放言シタ事デアツタ。私ハクツシングノ人格ヲ固ク信ジテキタシ、理由ハ兎ニ角クツシングハダンディノ先生ニハ違ヒナイノデ、コンナ放言ヲダンディノ爲ニ惜ンダモノデアル。

クツシングニ心醉シテキタ私ハダンディノ外科ニ感服シナガラモ、クツシングトコノ様ナ間柄ニアルダンディノ神經外科ハ『結局ダンディ獨自ノモノデアツテクツシングノ所謂正統トハ大分趣ヲ異ニシテキルニ違ヒナイ、クツシング正統ノ神經外科ガ見タイ』ト考ヘル様ニナツタ。ソレデ兎ニ角クツシングニ會ツテ話ヲ聞カウト考ヘテダンディノ所ヲ辭シタ。途中フィラデルフィアニ立寄りニューヘヴンニ着イタノハ11月下旬デアツタ。ヒドイ吹雪デ凍リツク様ニ寒カツタ。其ノ夜キース氏ニ會ヒ明日ニモクツシングヲ訪問シタイト述ベルト早速電話デ都合ヲ聞イテクレタ。併シ何トイフ運ノ惡サデアラウ。クツシングハ宿痾ノ脱疽ノ爲ニ足ノ趾ヲ切斷スル事ニナツテ、明日カラ入院スル豫定ニナツテキルトノ事デアツタ。會ヘナイト分ツテ途方ニ暮レタガ、トニカク標本ヤ「カルテ」丈デモ見セテ貰ヒ度イト思ヒ、翌日エール大學醫學部内ノBrain Tumor Registryヘ行き、ソコノ主任ノアイゼンハルト女史ノ許可ヲ得テ、以後2週間毎日組織標本ヤ「カルテ」ヲ見セテ貰ツタ。

ソレ迄訪ネタ米國ノ病院ヤ研究所デハ、名刺1枚デ來意ヲ述ベルト氣輕ニ親切ニ案内シテクレテ此方ガ却ツテ當惑スル位色々ナモノヲ見セテクレルノガ普通デアツタ。所ガ此處ハ中々ヤカマシカツタ。標本ヲ見セテ貰フニツイテモ、履歴書ヤ今迄ノ論文目錄ヲ書イテ出セト要求サレタ。私ノ事ハクツシングハ既ニキース氏ヲ通ジテ知ツテ居リ(キース氏ハ此ノ地方デハ知名ノ「エンヂニア」デアル)、アイゼンハルトモイツカ私ガクツシングヘ出シタ禮狀ヲ通ジテ知ツテキタノデアルガ、コノデハ紹介ガアルトイフ丈デハ足りナイノデ、チャントシタ手續ガ必要ナノデアル。此ノ地方(新英州)ハ一體ニ保守的デ、禮儀作法ソノ他萬事英國式デアルト聞イテキタガ、サウデナクテモクツシングトイフ人ガサウイフ事ニ非常ニ嚴格ナノデアル。

クツシングノ「カルテ」トイヘバ病歴及ビ神經學の検査ノ記載ノ正確ナ事デ有名デアル。色々代表的ナ症例ニ就テ「カルテ」ヲ見セテ貰ツタガ、成程コレハクツシングノ几帳面デ物事ヲ精密ニ觀察スル性格ソノ儘ヲ反映シタ詳細ヲ極メタモノデアル。特色ハ古典的ナ神經學の検査法ガ主デ試験室内ノ検査ニハアマリ重キヲ置イテ居ナイ事、ソレト手術記錄ハクツシング自身ノ記載デアルガ、手術ノ經過ヲ順次上手ナ圖ヲ以テ示シテアルコト、(クツシングハ繪ノウマイ人ナノデ簡單ナ「スケッチ」デモ中々要領ヲ得テキル)、及ビソノ手術ニ關スル感想ヲ詳シク記入シテアルコト、即チアソコハ今後カウシタ方ガヨイト思フトカ、此ノ例ハコノ様ナ點ガ從來ノ例ト

ハ違フトカ、後ヘノ参考ニナル様ナ事ハ正直ニ記載シテアルコトデアル。コレハ讀ンデ仲々興味モ深く又有益ナモノデアル。クツシングハ一生ノ間ニ厖大ナ神経外科ノ患者ヲ取扱ツタ人デアルケレドモ、元來唯數ノ多イ事ヲ望ムトイフ性質ノ人デハナク、少數ノ例デアツテモ充分ニ研究シテ味フ事ヲ主義トシタ人デアル。從ツテドンナ詰ラスト思ハレル例デモ決シテ輕視シタリシナイ。ソレガ「カルテ」ノ上ニモ到ルトコロニ窺ハレルノデアル。

私ハ此「カルテ」ノ見本トシテ代表的ナモノヲ二ツ三ツ寫シタイト思ツテアイゼンハルトニ頼ンデ見た。スルト『クツシングハ「カルテ」ヲ寫ス事ハ自分ノ助手ニ對シテモ許サナカツタ。併シ遠方カラ遙々來タ貴下ノ事故クツシングニ訊イテ見ヤウ』トイフ事デ、クツシングノ許可ヲ得タ上デ始メテ既ニ發表濟ノ例「カルテ」ヲ2~3出シテクレタ。クツシングノ几帳面サ嚴格サガ茲ニモ面目躍如トシテキル。アイゼンハルト女史ハモトクツシングノ祕書ヲシテキタ人デクツシングガ歐洲戦争ニ從軍スル機會ニ醫科大學ニ入り卒業スルヤ、再ビクツシングノ許ニ歸ツテ、主トシテ腦腫瘍ノ病理學的ナ方面ヲ研究シテ來タ人デアルカラ、クツシングニ接スルコト長ク彼ノ氣性ヲ非常ニヨク吞込ンデキルノデアル。クツシングガ死ンデモ彼女ハ依然エールノ Brain Tumor Registry (又ハ Cushing Tumor Registry) ノ主任トシテクツシングノ臨床例及ビ標本ニ就テ研究ヲ續ケテユクデアラウシ、クツシングガ仕殘シタ事ハ今後アイゼンハルトノ手ニ依ツテ完成サレルコト、思フ。

エールヲ發ツ時ニ、世話ニナツタクツシングノ祕書ニ挨拶ニ行クト丁度ソノ日カラクツシングガ出勤シテキルトノ事デ始メテ彼ニ面接スル事ガ出來タ。足ノ疼痛ノ爲ニ歩行出來ナイノデ移動椅子ノ助ケヲ借リナクテハナラナカツタ。退院直後ノ憔悴ノ爲カ、小柄乍ラ廣イ額、鋭イ眼光、鋭角の鼻、薄イ唇、削ケタ頬、太イ聲等尙トナク威壓サレル様ナ鋭イ感ジデアツタ。中田教授ノ手紙ニアツタ好々爺ノ趣ハ微塵モナカツタ。『君ハ自分ノ「カルテ」ヲ寫シタイト云ツタサウダガ、人ノ眞似ヲシテハイケナイ。自分デ考ヘ、自分デ工夫シ、ソシテ練習ヲ積ム事ダ、何事モ Practice! Practice!』彼ハコリトモシナイデカウ訓ヘタ。重苦シイ空氣デ私ハトデモ長座スルコトニ堪ヘナカツタ。匆々ニ辭去シタガ、ソノ際握ツタ彼ノ手ハ冷タカツタ。fine man トイフ意味ヲ人觸リガイ、トイフ風ニ勝手ニ解釋シ從ツテ好々爺ト許リ思ヒ込ンデキタ私ノ豫想ハ全ク裏切ラレタ。怖イ親爺トイフ寒イ感ジデー一杯デアツタ。

私ハクツシングニ貴下ノ正シイ傳統ヲツイダ脳外科ヲヤツテキルノハ誰カト訊クト、彼ハ中田教授ニ答ヘタト同ジクボストンノホーラツクスヲ推奨シタ。矢張りソウダツタと思ツテ私ハ豫定通りボストンヘ向ツタ。

ホーラツクスハ Johns Hopkins ノ學生時代カラクツシングノ生徒デ、其後ズトクツシングノ下デ働キ、歐洲戦争ニモ一緒ニ從軍シ、後デハクツシングノ助教授トシテ前後合セテ20年近クモ彼ノ傍ニ居タ人デアル。從ツテ此人ガクツシングノ遺風ヲ其儘繼承シテキル事ハ當然ト思ハレタ。クツシングト同時ニハーバートヲ辭メテ其後ボストンノ Lahey Clinic ノ神経外科ヲ

擔當シテ居ルガ、クツシングハ自分ノ診タ患者ハ大抵コノホーラツクスノ所ヘ送ツテキル。私ハホーラツクスニ會ツテ『貴下ハクツシングノ外科ヲ最モヨク踏襲シテ居ラレルソウデアアルカラ2ヶ月許リ見學サシテハ戴ケマイカ』ト頼ンダ。ツイ思ツテ居ル通りヲ云ツテ仕舞ツタガ、此挨拶ハホーラツクスニトツテ餘リ嬉シクナカツタト見エ『イヤ自分ガヤツテキルノハクツシングノ通りデハナイ』ト急イデ辯解シタ。假令如何ニ偉イ先生ダツタニシテモ其儘踏襲シテ居ルト云ハレテハホーラツクスノ無能ヲ表明スル事ニナラウ。成程之ハ私ノ失言デアツタト後悔シタ。兎ニ角私ハホーラツクスノ外科ヲ見學スル事ニナツタ。噂ハ矢張り本當ノ様ニ思ハレタ。彼ノ手術ノ特長ハ 1) 手術野ガ非常ニ大キイ、2) 手術ガトデモ叮嚀デ「モーション」ガ遅イ、見テ居テ退屈スル、惡ク云ヘバ愚圖デアアル、3) 併シヤツテキル事自身ハ非常ニ合理的デ且ツ仲々大膽ナ事ヲスル。即チ一口ニ云フト手術ノ「プラン」ハ大膽ニ、手技ハ細心ニト云フ事ニナル。之ハ晩年ニナルニツレテクツシングガ斯様ナ傾向ニ進ンデ來タノト符節ヲ合スル。(クツシングハ初メハ手術ノ「プラン」モ手技モ共ニ細心且ツ控日デアツタラシイガ、後年ハ「プラン」ハ仲々大膽ニナツタト思ハレル點ガ多イ。)

退屈ナ手術デハアツタガ、見テ居テ教ヘラレル所ハ多カツタ。私ハ之ガクツシングノ手術ダト思ツテ辛抱強ク見學ヲ續ケタ。

私ハ其後シカゴノベーレイ教授ノ許ヘ行キソコニ始メテ居心地ノヨイ勉強場所ヲ見出シタ。私ハ手術者トシテヨリモ學者トシテノベーレイノ學問ガ教ハリ度クテシカゴヘ來タノデアアル。ダンディモ親切デアツタガベーレイハ私ニ對シテソレ以上ニ親切デアツタ。クツシングハ倫敦デホースレイヲ訪レタ時『彼ハ親切ソノモノデアツタ』ト述ベテキルガ、私ニ對スルベーレイモ正ニ親切ソノモノデアツタ。私ハ彼ノ臨床検査ノ要領ノヨサ、觀察ノ鋭サ、考ヘ方ノ適確サ、研究ニ關スル眞剣サ等々啓發サレル所ガ甚ダ多カツタ。手術モ一部ノ人ガ云フ様ニ下手デハナカツタ。ソレニ何ヨリモ人柄ガヨカツタ。此程ノ人ヲ如何シテクツシングハケチヲツケル様ニ云フノデアラウト奇異ニ堪ヘナカツタ。私ノ感想トシテハクツシングノ弟子達ノ中何ント云ツテモ手術者トシテハダンディガ第一、學者トシテハベーレイガ随一ト思フ。然ルニコノ2人共クツシングヲ始メ其他ノ人々ニ兎角ケチヲツケラレルノハ何故デアラウ。私ハ考ヘル。ソレハコノ2人ガ飛ビ拔ケテ偉イカラダ。自分ノ先生ヤ先輩ノ所論ニ捉ハレナイデ自分獨自ノ研究ヲグン進メテ行クカラダ。クツシングノ性格トシテハ之ヲ恰モ自分ニ反逆スルモノノ如ク感ズルノデハナカラウカ。

ベーレイハクツシングニ關スル色々ナ逸話ヲ雜談ノ間ニ聞カシテクレタ。其等ノ話モ茲ニ記シテ差支ヘナカラウト思フ。

ベーレイガクツシングノ下デ助手ヲシテキタ頃頃部ニ癩ガ出來タ。クツシングガ夫ヲ知ツテ『ヨシ自分ガ癩シテヤラウ』ト専門違ヒニモ拘ラズ自分獨リデ色々手當シテ呉レタガ病勢ハ増惡スル一方デアツタ。ソレデベーレイノ方ガ不安ニナツテクツシングニ内密デ一般外科ノ専門醫

ノ診療ヲ受ケ漸次快方ニ向ツタ。クツシングハソレヲ察知シテ不氣嫌ダツタガ、何トモ云ハナカツタソウデアル。ペーレイハ今デモ『アノ時ハ危ク死ヌ所ダツタ』ト笑ヒ乍ラ述懐スル。

クツシングハ自分ノ末娘ノ手術モ矢張り自分デヤツタ。何ンデモナイ小サイ手術デアツタガ専門ノ一般外科醫ニ委セル氣ニナレナカツタノデアル。

其他クツシングノ鐵ノ神經ヲ物語ル逸話トシテ傳ヘラレテ居ルノハ、1926年ニ彼ハ自分ノ息子ヲ失ツタ。丁度手術ニカカラウトシテ居ル時ニソノ訃報ヲ受ケタ。彼ハ一寸立ツテ當時紐育ニ居タ夫人ニ電話ヲ掛ケタダケデ、スグ手術室ニ引返シテ平常通り手術ヲ行ツタ。

ペーレイハクツシングノ下ニ居ル時ニ色々ナ事デヒドク叱ラレタ。助手ノ年限ガ終ツテカラペーレイハ自分で運動シテ獎學資金ヲ得、巴里ノピエール・マリーノ所ニ神經病學研究ノ爲ニ留學スル事ニナツタ。ソノ由ヲクツシングニ申出ルト、モツト自分ノ許デ働イテ欲シカツタクツシングハ非常ニ怒ツテ『神經病學ノ事ナラ俺ガ教ヘテヤル』ト云ツタソウデアル。

ペーレイガ巴里カラ歸ツテクツシングノ研究室ヲ託サレテキタ頃、獨乙カラ留學ニ來デキタシャルテンブランド(現ウエルツブルグ大學内科ノ神經病學部主任)ト一緒ニヤツタ實驗ガクツシングガ日頃考ヘテキタ事ト一致シナイ結果ニナツタ時ニモ彼ハ非常ニ怒ツタソウデアル。

ペーレイガ或時述懐シテ云フノハ『クツシングハ獨乙ノフエルスタートト同様ニ自信ガ非常ニ強イノデ、指圖通りニ器械的ニ動ク弟子ヲ好ム。彼ハ自分ヲ非常ニ尊敬シテ居ルガ、好イテハ居ナイ』ト。

ペーレイガ昭和12年9月久々ニクツシングヲ訪問シタ時彼ハ非常ニ憔悴シテキタ。クツシングハ有名ナ喫煙家デアルガ、閉塞性動脈炎ト診斷サレテカラハ愛用ノ紙卷煙草ヲ止メネバナナカツタ。併シソレガ如何ニモ苦痛ダツタノデ遂ニ彼ハ『煙草ノ害ハ卷煙草ノ紙ニアル』トイフ屁理屈ヲ述ベテソノ頃専ラ「パイプ」デ喫煙シテキタソウデアル。

以上色々ノ挿話ハ皆クツシングノ鐵ノ神經ト學問上ノ火ノ様ナ自信ヲ物語ルモノデ、斯ル人ナレバコソ打勝チ難イ困難ヲ克服シテ神經外科ヲ確立スル事ガ出來タノデアル。學者ガ圓滿無礙ノ社交人デアルコトハ必ズシモ必要デナイノミナラズ、或場合ニハ却ツテソレガ學術的精進ノ障礙ニナル事サヘアルデアラウ。

色々小サナ不平ハ云ツテキテモ弟子達ハ無論ノコト、凡ベテノ醫學者ハクツシングノ學術的功績ニハ絶大ノ尊敬ヲ拂ヒ、彼ノ弟子又ハ知人デアル事ヲ非常ニ誇リトシテキル。誠ニクツシングハ今世紀ニ燦ク最大ノ外科學者ノ1人デアツタ。

京都外科集談會11月例會

昭和14年11月20日(月)午後6時半ヨリ京大樂友會館ニ於テ開催、下記ノ臨床例報告、特別講演等アリ盛會デアツタ。

外傷後急激ニ増惡セル辜丸肉腫ノ1例

福 中 一 雄

レ線照射ニ著效アリシ後腹膜肉腫

新 美 睦 世

急性乳腺炎ノ臨床像ヲ呈セル乳癌

松 田 孫 一

膀胱造影法ニヨル骨盤膿瘍診斷ニ就テ

石 野 講 師

特 別 講 演

手術ニ對スル Kreislaufbekämpfung

前 川 助 教 授

京都外科集談會12月例會

昭和14年12月20日(水)午後6時半ヨリ京大樂友會館ニ於テ開催、下記ノ臨床例報告アリ盛會デアツタ。

肝臟囊腫ノ1例

房 岡 隆 三

汎發性腹膜炎ニ續發セル膿胸3例

藤 岡 十 郎

窒息壞死組織ニ發生シタル瓦斯「フlegモーネ」ノ1例

宇 田 川 博

診斷上興味アリシ大網膜腫瘤

野 村 一 郎

胃潰瘍穿孔手術後胆汁瘻ノ「ブイオン・ガーゼタンポン」ニ依ル治驗例

野 間 勇

外科的疾患飢餓時ニ於ケル處置

淺 井 東 一

「グイタミン」Bノ腹膜炎時胃腸緊張並ニ蠕動亢進作用ニ就テ

村 上 治 朗

外傷性癲癇症(活動寫眞並ニ患者供覽)

字 田 川 博
淺 井 東 一